

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が長く、覚えられない職員もいる。	理念を端的に現わす言葉で、理念を言葉に発することが増える。	理念と同じ意味を持つ短いスローガンを職員で考える。	3ヶ月
2	4	運営推進会議のメンバーが利用者、家族、職員のみとなっている。	地域、行政が顔を揃える運営推進会議とする。第一段階として行政関係の出席を実現させる。	市長寿福祉課、地域包括支援センターへ運営推進会議の案内を継続的に届ける。	12ヶ月
3	6	身体拘束廃止未実地減算に係る書面の整備が不十分である。	1つのファイルに収め、其々の取組みの根拠を見直すことで、運用がさらに円滑になる。	指針、委員会議事録、研修記録(年2回、新人)の記録を改めて精査し、1つのファイルに収める。	1ヶ月
4	26	現状の介護計画書はベテランだから、または利用者を理解しているからできるものとなっていて、新人や経験が浅い人の実践が難しい。	経験差が影響されず、標準化されたケアサービスを提供(昨日のAさんはこうしてくれたけど、今日のBさんはずいぶん違う、ということがない)する。	2表サービス内容(例. レクリエーション)の実践で、長短目標(例. 「自分でできるよう支援したこと」)を具体的(例. 麻痺の右手の代わりに職員の手を貸すことでレクに参加できた)に実施記録に残すことで、介護計画書と実践を一致させる。	12ヶ月
5	35	「夜間想定」「消防署の立ち合い」の実施が、近年おこなわれていない。	年1回の法定訓練の内、1回は「夜間想定」を実施、また「消防署の立ち合い」から課題点を明確にする。	消防署に立ち会い(助言・指導)を求める。夜間想定の実施をどのようにしたらいいか、検討する。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。